

一年間の抱負

—— 幼児といっしょに たからさがし ——



清水 エミ子

今保育の上で何をやってみたい？ と聞かれたら、私は子どもといっしょに、たからさがしをしたい、と言うでしょう。そしてそれから、と聞かれたら、計画にふりまわされず、たくましく生活するための生活態度の反省を子どもと共にしながら、たのしい生活ができるようにしたいとこたえます。

一 たからさがし

○ 子どもが生活をたのしみ広げていくためのたからさをさがすのです。そのたからとは、子どもたちのゆめを育て、生活をつくるための④素材さがしであり、②あそびかたさがしなのです。

現在の幼稚園にも、いろいろの高価な科学的な遊具や教材が取り入れられるようになって来ました。今までのゼンマイの遊具が電池になり、三輪車が二輪車に、といったようにまた積木ひとつを

取り上げても、型の変化、材質のいろいろ（ブロック）など数多くとのえられるようになりました。しかし、子どもたちはその遊具の発達に等しいだけの進歩をしているでしょうか。否、私は遊具の力をたよりすぎて、自分の力を育てることをしなくなってきたのではないかとさえ思われるのです。そこで私は

④ みんなから、みはなされたようなガラクタの中から、子どもたちが自分の力であそびを考えてゆけるようなものをさがして子どもといっしょに、そのガラクタに命をふき込み、立派な教材として取り上げていきたい。（素材の系統的なあたえ方）

ねばり強さ、たくましさを育てるために、その取り上げ方を、今までのその場的な行きあたりの思いつきを反省し、科学的に取り上げていきたい。発達の特質をはっきりふまえて、子どもの発

達と興味にかなった物をさがしあてたい。

(四) あそびかたの発展、展開を助けながら、その素材での可能性をたしかめたい。遊びながら遊びを發展させるように助言したりいろいろの組合せを考え合ったりする。

○何度でもくりかえしてあそべる遊び

○ひとりですつとたしかめながらの遊び

○クラス全体でたのしくあそべる遊び

○グループを作つてあそぶ遊び

と、發展的な、しつぱいのくりかえしの可能なあそび方を子どもたちといっしょにあそびながら、きぐりあてていきたい。

そして子どもたちに考えることのためしさと失敗を成功させるよろこびを味わせながら、保育者としての遊びへの参加の仕方と助言、援助の仕方をみつめ、反省と保育方法のグッドアイデアを考えたい。(保育方法)

二 幼稚園生活、プログラムの反省と創造

幼稚園のカリキュラムや行事プログラムにおいてかけられる生活が、つい多くなりがちなので、計画が子どもを追いかけることをどうしたら最少限度におさえられるか、そして子どもたちだけの集団生活のためしさと生活の創造が進んでできるような、集団作りに努力したい。

どうしたら総合的な活動の發展ができるか、その生活プログラム

の立案に反省と努力をし、学級全体が、人まねをせず自分の考えて生活をたのしめるようにしたい。そのための保育者のプログラムの立案の仕方(展開の方法)を考えていきたいのです。

一つの活動が、どこまで、どのようにふかめられていくか、子どもたちの能力の可能性と限界をたしかめたい。

その手がかりとして(イ)自由遊びの活動と単元活動との総合、(ロ)グループ活動の發展と段階、などを子どもたちの自然な生活(保育者が引っぱっていく活動でなく)の中でたしかめ高めたい。

(イ) 保育者がととのえなくてはならない最少限の環境設定の研究と遊びの総合とグループ構成の關係をみつめる。

(ロ) 四―五才児での本當のグループ活動、(見せかけのグループ活動でなく)の可能性をみつめてたしかめる。

グループ活動で見のがしてはいけない条件のけんとうをした(田中熊次郎先生のグループダイナミックスの研究を手助けに)

○役割の交代、リーダーのあり方、あそびの展開、などをあせらず、いろいろの場面でさぐっていききたいと考えています。

こうやって、やってみたいことを考えていますと、あれもこれもとよくばりたくなって来ます。四月には、いつでも今年こそこれだけは、と考えて出發するのですがその何分の一も目的が達せられない。そのために、年の終りの三月には、自分に劣等感を感

じてうちのめされてしまう。しかしそれにまけていたのでは何ひとつ解決はしません。そこで今年、よくぼることをやめ、ほんの少しの目標ねがいをみのらせることに心掛ける決心をしたのです。

現場の人間でなくてはできないこと、否、しなければいけない努力をいっしょうけんめいにしたいと考えています。そして毎日の生活の中から前の二項目をゆつくりながめ、たしかめ育てたいのです。

現場人の忘れてならないことと、努力しなければならぬことはいくつもあると思います。

三 その他

① まず子どもの心をまちがいなくつかむための努力、子どもの心の声を聞きのがさないように、ひとりひとりの子どもとゆつくり時間をかけて話しあわなくてはなりません。子どもたちの位置までおいて、同じ立場で話し合い、子どもの要求を知ることが忘れてはならないと思います。そこで今年もことばの記録にせいを出したと考えています。

② 子どもをまちがいなく知るためには、母親との交りもおこたってはいけない。そして母親とはだかたで話し合いができるようになり、子どもの環境の一番大きい家庭環境をととのえてもらうようにしなければ、幼稚園でいくら努力しても片手おちになって

しまうと思います。そこでたのしいおかあさんのあつまりと話し合いの会をしたい。教育ママさんであることのまちがいをわかりあい、子どもたちの心の友であるためにはどういう、親子のつきあいをしたらよいか、話し合いたい。そしてほんの少しの子どもの変化も知らせ合い、考え合える関係を作っていかなくてはと思います。(母親と保育者)

③ 思いがけないできごとに対処する態度をやしなうために、子どもたちは世の中の生活の歴史が浅いために、いろいろの思いがけないことがらにびびりするほど、たくさんぶつかると

それが今まで母親やまわりのおとなが保護しすぎてしまったために、解決することなくおとなにわたしてしまい、たずけてもらってしまふことが多かったのです。(とくに日本のおとなたちがしてしまふ大きなあやまちのようです)

そのため、自分の生活にとまどい、劣等感を持ってしまふということが多すぎるのではないのでしょうか。たくましく、生活をつくることを学ばせるためには、この思いがけないことがらを子どもたちが、じぶんの力で解決していくくんれんをしなければ、いけないのではないのでしょうか。

私はこんな考えから、40年度は、テスト的に、思いがけないことからの場面を設定し対処の仕方の実態を調査してみたい。今年はこの調査をもとに、クラス全体が思いがけないことがらを体験

するような環境設定をし、クラス全体でその解決を考え合うようにしたいと考えています。

また、この思いがけないできごとの科学的な場の設定も研究し、子どもたちにあたえ、解決させていきたいとも考えております。

あたえられた問題解決ができるだけではなく、思いがけない問題も自分の力で解決していきけるような、たくましい生活力をもった子どもたちを育てていくことが、私たち保育者に与えられたつとめではないかと強く反省し、考えているのです。

これらのことがらのひとつひとつが、自分の学級・幼稚園だけにとどまらず、広い範囲の仲間を得て、共同で考えあい、広い範囲の子どもたちの可能性をたしかめていきたいと思えます。

そのためには思いつきの勉強のしかたでなく、計画的に事前の話し合いをし、保育者同志の共通理解を深めて研究しあいたいと考えています。

この共通理解の仕方こそ、子どもたちにもよい環境としてうつるのではないのでしょうか。

④ 自分の生活も人間としてゆたかに、広げてゆくことに努力します。

子どもとのつきあいで、四十名の子どもたちが、私ひとりをつめ、私を評価しているのです。だからごちごちの生活にうるおいのない私では、子どもたちが、私との生活にあきてしまい、創

造の努力をしてくれなくなるからです。

よい音楽をたのしむことをしつづければ、子どもたちとの生活のながれもリズムカルにたのしいものになるでしょう。

子どもの世界の話題におくれを取らないように、テレビマンガもときどきみてたのしむ努力もしなくてはいけないと思うのです。(マンガの中の時代性とよきをみとるために)

よい芝居もみたり、多く本をよんだりすることの努力が、みんな子どもたちの生活をふくらませ、広げてゆくことを考え、自分の生活をゆたかに育てなくてはと考えているのです。

思いつくままに書きながしてまいりましたが、今年度こそ、このひとつひとつをよくばらず、子どもと共に足を地につけてゆくり、時間をかけて、たしかめていきたいと考えております。

そのためには、ひとりよがりのたしかめでなく、多くの学者の方々、先輩の方々の研究や経験を学びながら、多くの研究者の仲間たちとたしかめていきたいと心にちかっております。

次の世代をになっていく子どもたちのしあわせのために、私たちは努力をおしまないちがいをたてあいたいとねがっております。